

An aerial photograph showing a landscape with a central brownish area, likely a wetland or a site of restoration. The area is surrounded by green fields and a winding river. The text "原生花園園地跡地における湿原植生の回復" is overlaid in yellow.

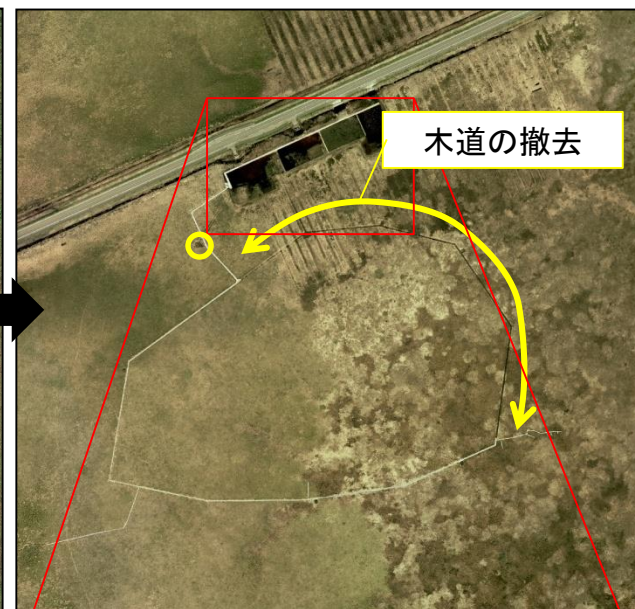
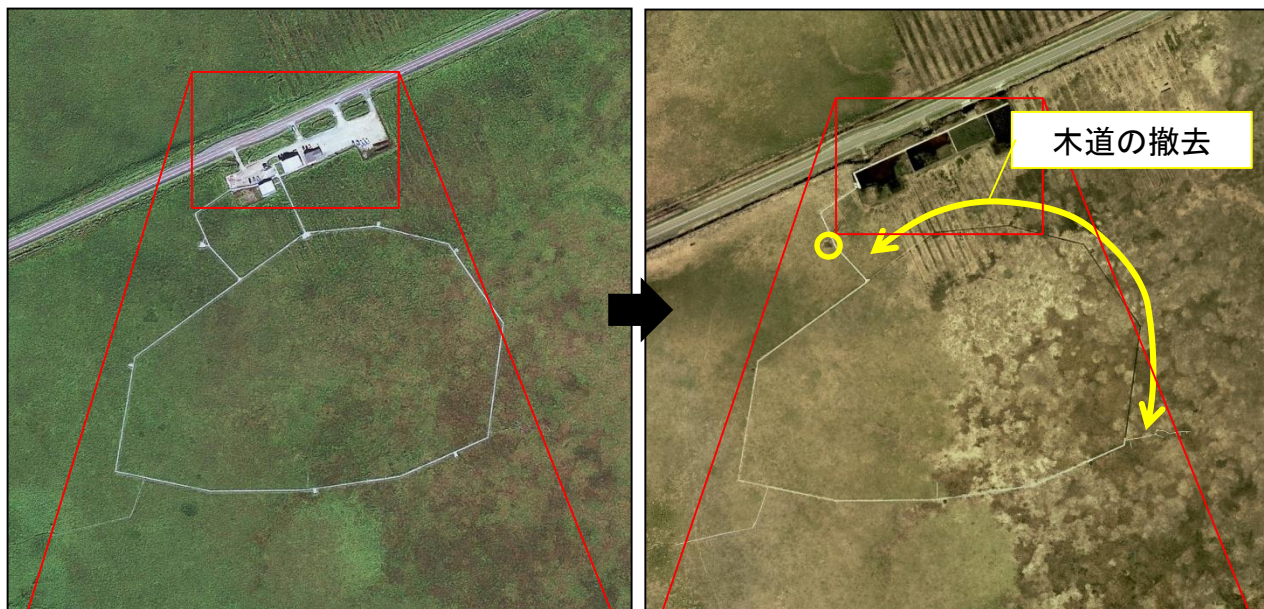
原生花園園地跡地における湿原植生の回復

原生花園園地跡地における事業進捗

①施設撤去後の原状回復を目的として植生回復試験を実施。

②平成22(2010)年12月～平成23(2011)年6月にかけて、施設の撤去および表土の掘削、泥炭の一部投入等の再生工事を実施。

③現在はその効果を確認するためのモニタリングを継続中。

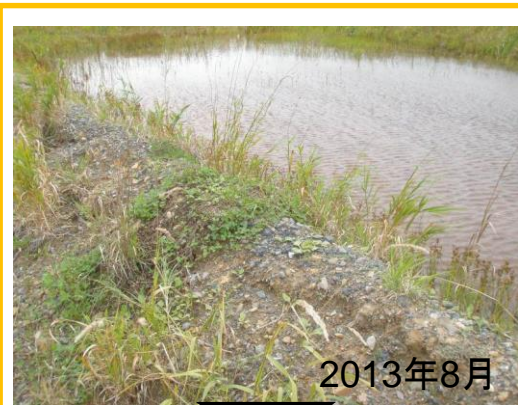


平成18年10月30日撮影

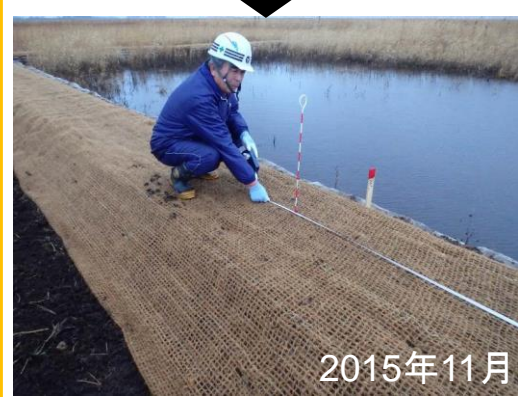
平成25年5月26日撮影

サロベツ原生花園園地跡地周辺の空中写真

事業進捗状況



2013年8月



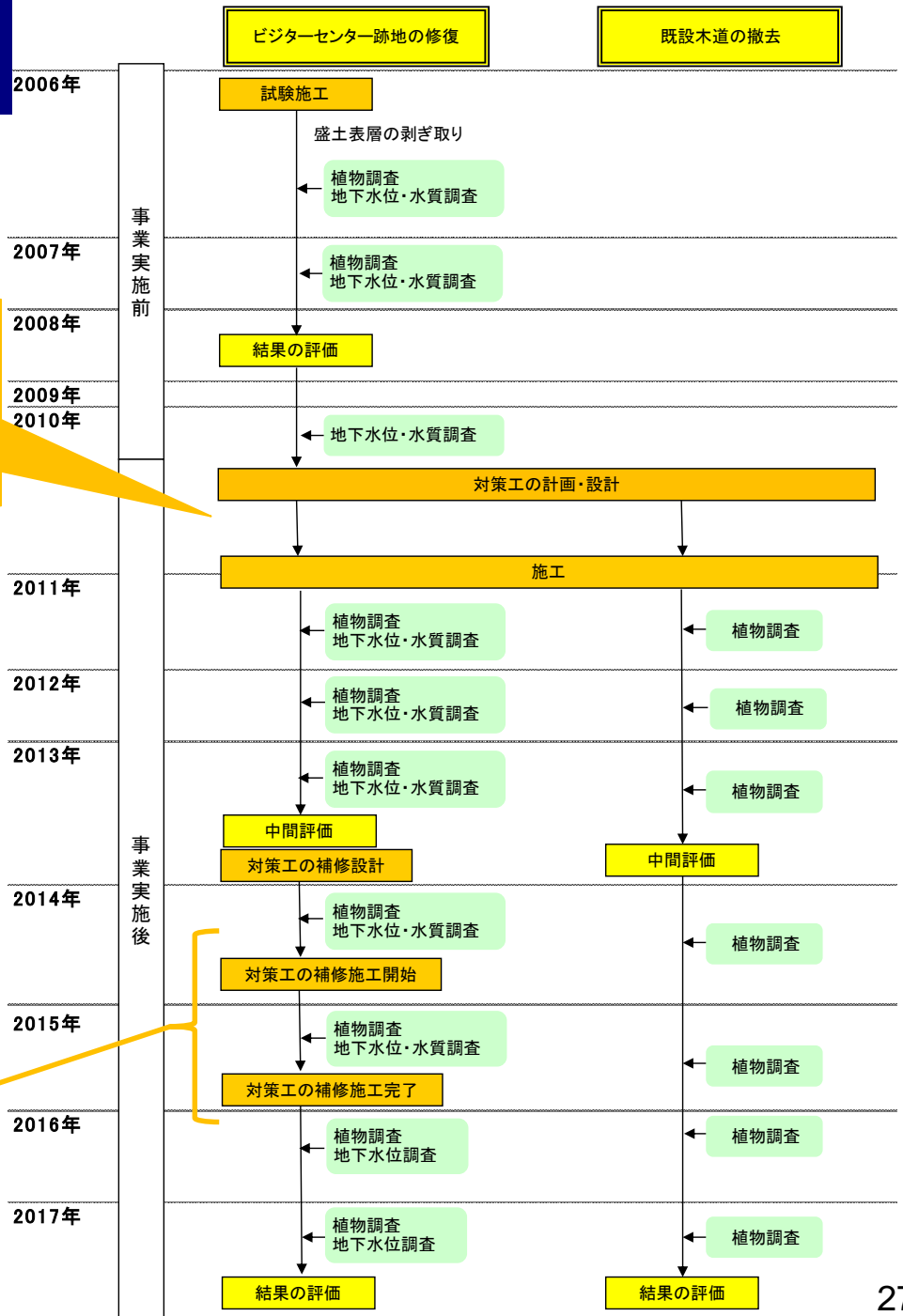
2015年11月



2016年9月

施設の撤去
表土の掘削、
泥炭の投入等の
再生工事

園地跡地では、試験区の境界盛土に侵食が各所でみられたことから、泥炭の盛土、植生ネットや土のうによる補修を実施



調査地点位置図



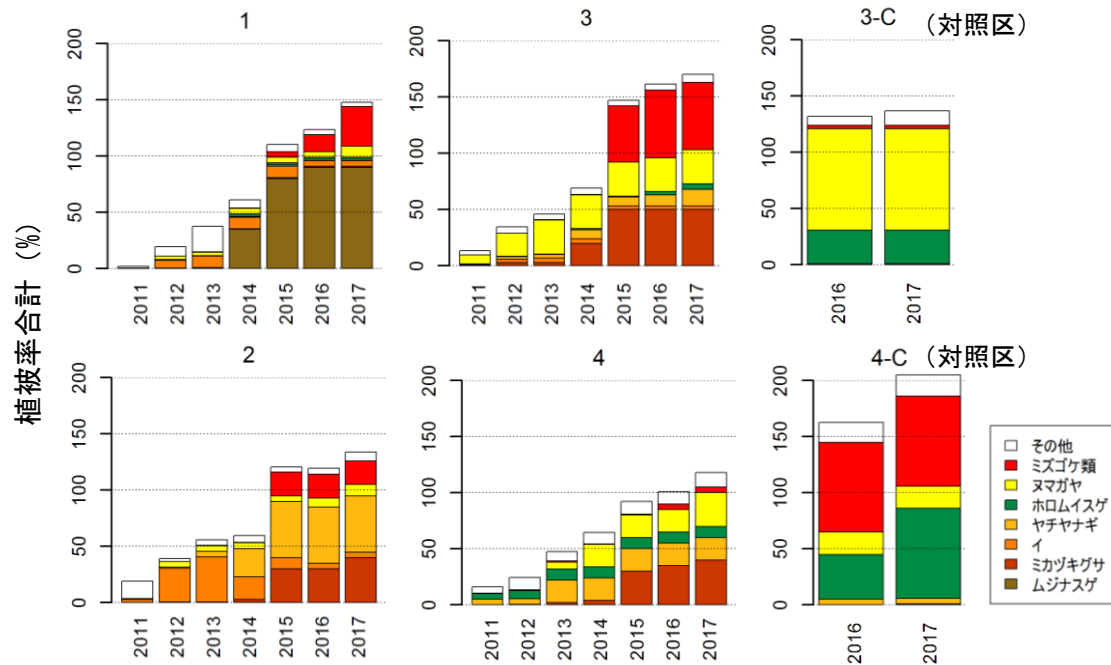
調査項目	目標	指標
植物 (再生対象)	在来の湿性種で構成される	現状の生育種に湿原植生が加わり維持される
	外来植物や路傍の種が繁茂しない	外来植物や路傍の種が確認されず他種が増加

※「平成23年度サロベツ自然再生事業水抜き水路堰き止め工調査設計等業務報告書」等より設定



0 50 100 150 200 250 m

木道跡地における植物の変化と結果・評価



2011/07/27
撤去直後

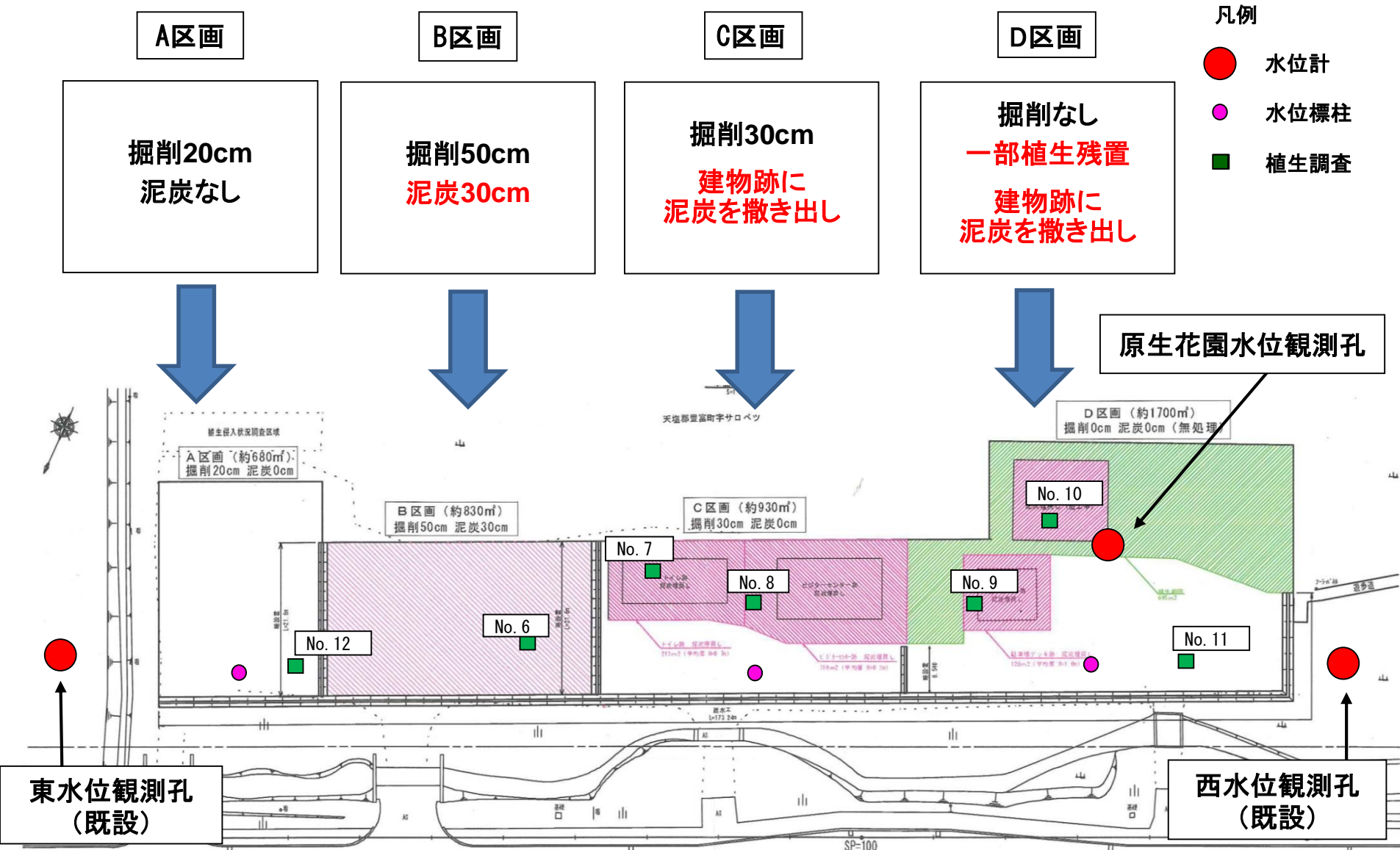


2017/08/23
6年後

- 各調査地点で、**ミズゴケ類の植生率が増加傾向**にあり、ハクサンスゲ、ヌマガヤ、ミカツキグサ、ヤチヤナギ、モウセンゴケ、ツルコケモモなどの**高層湿原評価指標種**も出現している。
- 新たに設置した対照区と比較すると、各調査地ではミズゴケ類やホロムイソゲ等の生育が認められる一方で、裸地にいち早く定着する**ミカツキグサ等の植物種も混生**しており、**植生遷移の途上**にあると考えられる。

- 植生は順調に回復。
- 対照区と比較すると植生遷移途上といえる。引き続き中長期的な視点でモニタリングを継続。

原生花園園地跡地 調査地点詳細図

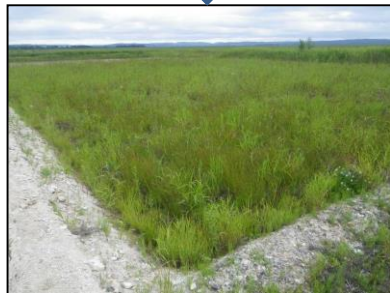


原生花園園地跡地 植生の変遷

A区画



B区画



C区画



D区画



2011/07/27
1年目

2013/7/17
3年目

2017/8/27
7年目

- ・B区画は泥炭を撒き出して地表面が高くなったため、冠水はみられない。植生回復が顕著であったが、種組成が単調化傾向にある。
- ・C、D区画の泥炭を撒き出した範囲(建物跡)では植生回復状況は良好。
- ・A、C、D区画の掘削面は冠水しており、開放水面がみられるものの、植生回復が少しずつ進行している。

原生花園園地跡地における結果・評価

場所	調査項目	指標	結果
A区画 掘削なし	植物 (再生対象)	<ul style="list-style-type: none"> ・現状の生育種に湿原植生が加わり、維持される ・外来植物や路傍の種が確認されず、他種が増加する 	<ul style="list-style-type: none"> ・開水面では植生回復が緩慢、ガマ、フトイ等の抽水植物が生育 ・外来植物や路傍の種は繁茂していない
B区画 掘削50cm、 泥炭30cm			<ul style="list-style-type: none"> ・植被率は回復したが、種組成が単調化傾向にある ・クサヨシが牧草由来の可能性はある
C区画 掘削30cm、 建物跡に泥炭			<ul style="list-style-type: none"> ・泥炭撒き出し領域の植生回復は良好 ・開水面では植生回復が緩慢 ・外来植物や路傍の種は繁茂していない
D区画 掘削なし（一部植生残置）、 建物跡に泥炭			<ul style="list-style-type: none"> ・泥炭撒き出し領域の植生回復は良好 ・開水面では植生回復が緩慢、ガマ、フトイ等の抽水植物が生育 ・外来植物や路傍の種は繁茂していない

※指標は「平成23年度サロベツ自然再生事業水抜き水路堰き止め工調査設計等業務報告書」等を参考に設定



- ・適度な冠水のある高さ（夏季に干上がらない）への泥炭撒き出しが効果的。
- ・今後は、より好ましい水位条件や泥炭の撒き出しを検討。

今後の実施計画

①園地跡地

植生回復手法に関する一定の成果が得られており、地下水位と植生回復の関係を踏まえた新たな対策案を検討。モニタリングを継続し、目標の達成状況を評価する。

②木道撤去跡

継続的にモニタリングを実施し、中長期的な観点での植生変化を確認。

